

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際トータルファッション専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾・家政専門課程	ファッションデザイン科	夜・通信	3040時間	240時間 3年制	
服飾・家政専門課程	ブライダル・コスチュームデザイン科	夜・通信	2000時間	160時間 2年制	
服飾・家政専門課程	ファッションスタイルリスト科	夜・通信	2000時間	160時間 2年制	
服飾・家政専門課程	ファッションビジネス科	夜・通信	2000時間	160時間 2年制	
服飾・家政専門課程	ファッションプロデュース科	夜・通信	2000時間	160時間 2年制	
服飾・家政専門課程	ニットデザイン科	夜・通信	2000時間	160時間 2年制	
服飾・家政専門課程	トータルファッション科	夜・通信	3920時間	320時間 4年制	
服飾・家政専門課程	ファッション専攻科	夜・通信	1000時間	80時間 1年制	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://nitf.jp/public/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際トータルファッション専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://nitf.jp/public/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2019年6月 1日～2023 年5月31日	教育統括的観点
非常勤	大学教授	2019年6月 1日～2023 年5月31日	教育統括的観点
非常勤	団体職員	2020年3月 31日～2023 年5月31日	政策的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際トータルファッション専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>学科特性の専門的な知識・技術を取得するために必要な講義・実習・演習教育を取り入れている。1年間の授業計画をたて公表する事で、学生が学習の目標を理解し、求められる到達度を知ること、学習する動機付けにつながる。担当教員がシラバスの授業計画を立てるため、進捗や内容について把握しながら指導が出来る。また、他教科との連動も必要のため、担当教員どうしてもシラバスを共有し指導する事から、より専門性の向上を図ることができる。</p> <p>公表スケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、9月、前期シラバス総括と後期シラバスの調整。 2、11月、次年度の学校運営方針を決定。 3、1月、1年間のシラバス総括(シラバスの進捗・内容・目標達成について総括)と次年度への授業内容改善点・目標達成・成績評価方法や基準の見直し。 4、1月、次年度科目・年間スケジュール決定。 5、2月、時間割り・シラバス決定。 6、3月、https://nitf.jp/public/へ公表。 	
授業計画書の公表方法	https://nitf.jp/public/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。 2、算出方法は以下の通り <ul style="list-style-type: none"> A：成績評価はA B C Dの4段階とする。 B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。 3、評価基準は以下のとおり <ul style="list-style-type: none"> 100点満点換算で次の基準を目安とします。 A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～0 (学力評価試験) <p>考査基準</p> <p>前期後期終了時に、科目毎の出席を集計し、80%以上の出席率に達しない者、および通常提出課題が100%提出されていない者は対象にはなりません。成績いかんにかかわらずD評価となり、追試試験を受験しなければならない。また、補講時間・追試試験・追試試験・課題提出が合格した場合は成績評価C評価となる。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は原則として各科目別で行われ、前期末(9月)後期の各学期末(2月)に評価を行う。 ・成績評価はA B C Dの4段階とする。 ・G P Aとは、客観的な指標の設定には、「A評価」から「D評価」に、それぞれ所定のポイントを掛けた合計点を総科目数で割りスコアを算出し、そのスコアをもって成績分布を算出する。 $(A評価 \times 4 P \times 科目数) + (B評価 \times 3 P \times 科目数) + (C評価 \times 2 P \times 科目数) + (D評価 \times 1 P \times 科目数) \div 総科目数 = スコア$ ・前期・年間評価に算出されたG P Aを基に成績分布図を作成する。 ・各学生の状況把握と学生指導に活用する。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://nitf.jp/public/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。</p> <p><ディプロマポリシー></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション分野における専門知識と技術を修得し、それを実践的に応用できる能力。 2. 企業人としての基本的な素養を持ち、達成すべき目標や自らが果たすべき責任、役割を自覚し行動できる能力。 3. 広い視野と豊かな人間性、時代の変化に柔軟に対応できる能力。 <p><卒業判定の手順></p> <p>前期後期末で年間出席率が80%以上あること、および通常提出課題が100%提出されている事。学費等の納入が完納している事。2月の卒業判定会議において、学校長、教務部長、事務局長により各学生の卒業の可否を判定する。</p> <p>卒業判定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%になること。 ・制作課題の規定基準を充たす事。 ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。 ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://nitf.jp/public/ (シラバス策定と成績評価方法にて公表)</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際トータルファッション専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://nitf.jp/public/
収支計算書又は損益計算書	https://nitf.jp/public/
財産目録	https://nitf.jp/public/
事業報告書	https://nitf.jp/public/
監事による監査報告（書）	https://nitf.jp/public/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課	ファッションデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3120時間/単位	400時間/ 単位	360時間/ 単位	2360時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
	夜		3120時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
35人		33人	0人	4人	3人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）デザイン・パターン・縫製の幅広い分野で基本から応用的な要素を総合的に導入し、それぞれの分野の専門性を高め、クリエイティブな感性や技術を修得します。</p> <p><1年次> 服作りに必要な基本的な専門知識と技術を、実習・演習・講義を通して学びます。デザイン画での表現技法と発想力を学習し、軽衣料アイテムを中心とした平面作図によるパターン制作と、軽衣料中心とした縫製の基本の技術を学び、服の構造を理解します。また、服装史や商品素材、色彩、ファッションビジネスなど幅広い知識を学習し、色彩検定・洋裁技術検定・パーソナルカラー検定などの取得を目指します。また海外研修では国際感覚の育成と異文化での見聞を広めます。</p> <p><2年次> 2年次では、服の機能性、構造を理解する上で、立体裁断を取り入れ、平面と立体についてより深く学びます。パターン・縫製では重衣料を中心に、デザインや素材特性も理解した上で、技術力の向上を図ります。デザインでは、国内外のコンテストへ積極的に挑戦し、コンスタントに入賞する高い発想力と表現力を高めます。また、オリジナルブランドの立案や企業プレゼンのポートフォリオ作成で、企画提案・プレゼンテーション力を培います。さらにパターンメイキング検定・洋裁技術検定取得をめざします。</p>

<p><3年次> 3年次では、2年次で得た専門的知識・技術を基に、国内外でのコンペティションでのクリエイティブな感性や発想力、さらにコスト面や生産工程までも考え、アパレル企業で即戦力となりうる服作りのテクニックを身に付けます。国内外からの一流のデザイナー・パタンナーからの直接指導により、オリジナルブランド企画立案とプレゼンテーション、高度な立体パターン技法を修得します。また産学プログラムとして 売り場での商品展開として、職出しの知識と原価からの上代設定、下代の仕組みを学習し、売れる商品企画のノウハウと商品化までのプロセスを学びます。</p> <p>毎年、年度末に各科目を考査し、次年度の年間授業計画を作成する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。 1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。 2、算出方法は以下の通り A：成績評価はA B C Dの4段階とする。 B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。 3、評価基準は以下のとおり 100点満点換算で次の基準を目安とします。 A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～0</p> <p>出席率80%以上、課題提出100%、課題評価、定期試験結果や学習意欲などで総合的に成績評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%以上になること。 ・制作課題の規定基準C以上を充たすこと。 ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。 ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) クラス担任制を採用しており、学習未達や欠席の長期欠席者に関しては、以下の通り支援をしている。 ①本人との個人面談（担任もしくは担任以外の教務とも連携） ②保護者との連携または三者面談 ③スクールカウンセラーとの連携 ④放課後の空き時間などで補講や個別対応にて課題フォロー。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	7人 (87.5%)	1人 (12.5%)

(主な就職、業界等) アパレル業・縫製業
(就職指導内容) 1年次は就職実務で自己PR作成・履歴書の書き方・マナー・リクルートに対するの知識を学ぶ2年次は就職用資料作りとしてポートフォリオ制作、企業研究・ガイダンス・面接練習を実施・3年次は企業受験に合わせた個別指導、グループ面接、個人面接練習などで受験対策をメインに指導。
(主な学修成果(資格・検定等)) パターンメイキング技術検定3級 75%、パターンメイキング技術検定2級 50%、色彩検定3級 100%、パーソナルカラー検定モジュール1 100%、県洋裁技術検定1級 100%、Word 文書処理技能認定試験3級 100%、Excel 表計算処理技能認定試験3級 100%、コミュニケーション検定初級 100%
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	1人	3.2%
(中途退学の主な理由) 精神的問題と進路変更の為。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制・個人面談・三者面談・スクールカウンセリング・講演会		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	ブライダル・コスチュームデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080時間/単位	240時間/単位	280時間/単位	1440時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		2080時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		31人	0人	3人	5人	8人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ブライダルドレス・衣装・コスチューム制作を通して、ファッションにおける豊かな創造性、独創性、感性を育て、デザイナー・パタンナー・ソーイングスタッフとしての専門知識を高めます。 <1年次> 服作りに必要な基本的な専門知識と技術を、実習・演習・講義を通して学びます。デザイン画での表現技法と発想力を学習し、軽衣料アイテムを中心とした平面作図

<p>によるパターン制作と、軽衣料中心とした縫製の基本の技術を学び、服の構造を理解します。また、服装史や商品素材、色彩、ファッションビジネスなど幅広い知識を学習し、色彩検定・洋裁技術検定・パーソナルカラー検定などの取得を目指します。また海外研修では国際感覚の育成と異文化での見聞を広めます。</p> <p><2年次></p> <p>○衣装デザインコース</p> <p>2年次では、服の機能性、構造を理解する上で、立体裁断を取り入れ、平面と立体についてより深く学びます。前期のパターン・縫製では重衣料を中心に、デザインや素材特性も理解した上で、技術力の向上を図ります。デザインでは、国内外のコンテストへ積極的に挑戦し、コンスタントに入賞する高い発想力と表現力を高めまします。さらにパターンメイキング検定・洋裁技術検定取得をめざします。</p> <p>○ウエディングドレスコース</p> <p>2年次では、ウエディングドレス製作を通して、人体の構造を理解したパターン力と高級素材や特殊素材などを使用した縫製技術を要する、知識と技術を習得します。またクチュールテクニックで、刺繍テクニックや高度な縫製技術を学び、クオリティの高いドレス制作を習得します。さらにパターンメイキング検定・洋裁技術検定取得をめざします。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。</p> <p>1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。</p> <p>2、算出方法は以下の通り</p> <p>A：成績評価はA B C Dの4段階とする。</p> <p>B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。</p> <p>3、評価基準は以下のとおり</p> <p>100点満点換算で次の基準を目安とします。</p> <p>A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～0</p> <p>出席率80%以上、課題提出100%、課題評価、定期試験結果や学習意欲などで総合的に成績評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%以上になること。 ・制作課題の規定基準C以上を充たすこと。 ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。 ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制を採用しており、学習未達や欠席の長期欠席者に関しては、以下の通り支援をしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①本人との個人面談（担任もしくは担任以外の教務とも連携） ②保護者との連携または三者面談 ③スクールカウンセラーとの連携 ④放課後の空き時間などで補講や個別対応にて課題フォロー。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	1人 (7.1%)	11人 (78.5%)	2人 (14.2%)
（主な就職、業界等） アパレル業・縫製業			
（就職指導内容） 1年次は就職実務での授業や企業研究、ガイダンス、面接練習を実施。2年次は企業受験に合わせた個別指導、グループ面接、個人面接練習など実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） パターンメイキング検定3級100%、県洋裁技術検定2級100%、県洋裁技術検定1級100%、色彩検定3級100%、パーソナルカラー検定モジュール1 100%、Word文書処理技能認定試験3級 100%、Excel表計算処理技能認定試験3級 100%、コミュニケーション検定初級100%			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制・個人面談・三者面談・スクールカウンセリング・講演会		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	ファッションスタイリスト科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080時間/単位	520時間/単位	200時間/単位	1360時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2080時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		25人	0人	3人	5人	8人	

<p>カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）</p>
<p>（概要） スタイリストやプレス広告業務にするにあたってのスタイリング技術やスタイリストとしての心得やマナーなどを習得する。またプレス広告業務を理解しプレスとして広告作成、企業と連携した広告作成など即戦力となる人材を育成します。</p> <p><1年次> スタイリストワークでは、アイロンのかけ方・サイズ調整・靴の裏張り・商品の取り扱い方・着せつけ方など、現場に必要な基本的な知識・技術を取得します。またカメラの基本操作や照明、機材の使い方などを理解し、人物撮り、物撮りの撮影テクニックや、雑誌広告等の編集に役立つイラストレーターなど、クリエイティブなスキルを身に付けます。また、2年次ブライダルコースへの選択可能のため、ブライダル業界全般の知識やマナーについて学びます。また、ファッション史や商品素材、色彩、ファッションビジネスなど幅広い知識も学び、さらに、色彩検定・洋裁技術検定・パーソナルカラー検定・ファッション販売能力検定などの取得を目指します。また海外研修では国際感覚の育成と異文化での見聞を広めます。</p> <p><2年次> ○スタイリスト・プレスコース 1年次で習得した知識を活かし、2年次では企業との連携でクライアントの求める内容を理解し、テーマに基づいた企画、プレゼンテーション、スタイリング、撮影など、現場実習で実践的に学びます。また、フォトショップでの写真構成や作品の精度をあげ、クリエイティブなスキルを身に付けます。ファッションリメイクなどで作品制作や、スタイリング・メイク・フォトなどで、独自の世界観を表現できる能力を身に付けます。さらに、ファッション販売能力検定2級の取得を目指します。</p> <p>○ブライダルビューティストコース 1年次で習得した知識を活かし、2年次でブライダル企業との連携で、クライアントの求める内容を理解し、テーマに基づいた企画、プレゼンテーション、着物スタイリング、撮影など、現場実習で実践的に学びます。その他ブライダル企画では、ブライダルプランに基づいたブライダルディスプレイ制作などで、ブライダルイメージを作り上げます。また、トータルで表現できるブライダルドレススタイリングや、ブライダル全般の知識を学びます。また、フォトショップでの写真構成や作品の精度をあげ、クリエイティブなスキルを身に付けます。これらの学習を通し、ブライダルコーディネーター技能検定3級取得を目指します。</p> <p>各学科の専門的で実践的な科目を開設し、講義、実習、演習を組み合わせた教育を展開している。毎年、年度末に各科目を考査し、次年度の年間授業計画を作成する。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>（概要） 成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。</p> <p>1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。</p> <p>2、算出方法は以下の通り A：成績評価はA B C Dの4段階とする。 B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。</p> <p>3、評価基準は以下のとおり 100点満点換算で次の基準を目安とします。 A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～50</p> <p>出席率80%以上、課題提出100%、課題評価、定期試験結果や学習意欲などで総合的に成績評価を行う。</p>

卒業・進級の認定基準
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%以上になること。 ・制作課題の規定基準C以上を充たすこと。 ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。 ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。
学修支援等
(概要) クラス担任制を採用しており、学習未達や欠席の長期欠席者に関しては、以下の通り支援をしている。 ①本人との個人面談（担任もしくは担任以外の教務とも連携） ②保護者との連携または三者面談 ③スクールカウンセラーとの連携 ④放課後の空き時間などで補講や個別対応にて課題フォロー。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	6人 (46.2%)	7人 (53.8%)
(主な就職、業界等) スタイリスト・アパレル業・ブライダル業			
(就職指導内容) 1年次は就職実務での授業や企業研究、ガイダンス、面接練習を実施。 2年次は企業受験に合わせた個別指導、グループ面接、個人面接練習など実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ファッション販売能力検定3級 100%、色彩検定3級 90%、パーソナルカラー検定モジュール1 100%、Word文書処理技能認定試験3級 100%、Excel表計算処理技能認定試験3級 100%、メイクセラピー3級 100%、ブライダルコーディネーター技能検定3級 100%、パーソナルカラー検定モジュール2 100%、ファッション販売能力検定2級 100%、コミュニケーション検定 初級 100%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	2人	7.1%
(中途退学の主な理由) 基礎学力不足・精神的問題で通学が困難の為。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制・個人面談・三者面談・スクールカウンセリング・講演会		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	ファッションビジネス科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080時間/単位	880時間/単位	160時間/単位	1040時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2080時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		31人	0人	4人	5人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
<p>（概要）</p> <p>各学科の専門的で実践的な科目を開設し、講義、実習、演習を組み合わせた教育を展開している。毎年、年度末に各科目を考査し、次年度の年間授業計画を作成する。</p> <p>（概要）販売員を目指すとともに将来バイヤー、マーチャンダイザー、WEB担当者などにキャリアアップするための専門性や高度な技術を修得します。</p> <p><1年次></p> <p>販売に必要な基本的な専門知識と技術を、実習・演習・講義を通して学びます。ロールプレイングやVMDでは販売員に必要な接客方法や購買心理、陳列方法などを学習します。また、服装史や商品素材、色彩、ファッションビジネスなど幅広い知識を学習し、ファッション販売能力検定・色彩検定・パーソナルカラー検定などの取得を目指します。また海外研修では国際感覚の育成と異文化での見聞を広めます。</p> <p><2年次></p> <p>○バイヤー・ショップオーナーコース</p> <p>2年次では、将来キャリアアップするための知識や技術を学びます。バイヤーになるための国内・海外での買付実習や店舗運営で実店舗の運営やSNSでの告知方法などより実践的に役立つ、知識や技術力の向上を図ります。さらにファッション販売検定2級・色彩検定2級・社会人マナー検定取得を目指します。</p> <p>○ファッション販売・WEBコース</p> <p>2年次では、販売に関する知識・技術を高めます。接客では国内の専門学校が参加するロールプレイングコンテストへ積極的に挑戦し、接客力・コミュニケーション力を高めます。ショッププロデュースやWEBショップを立ち上げ、実践的に役立つ知識技術を学びます。</p>						
成績評価の基準・方法						
<p>（概要）</p> <p>成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。</p> <p>1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。</p> <p>2、算出方法は以下の通り</p> <p>A：成績評価はA B C Dの4段階とする。</p> <p>B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。</p> <p>3、評価基準は以下のとおり</p> <p>100点満点換算で次の基準を目安とします。</p> <p>A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～0</p>						

出席率80%以上、課題提出100%、課題評価、定期試験結果や学習意欲などで総合的に成績評価を行う。
卒業・進級の認定基準
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%以上になること。 ・制作課題の規定基準C以上を充たすこと。 ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。 ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。
学修支援等
(概要) クラス担任制を採用しており、学習未達や欠席の長期欠席者に関しては、以下の通り支援をしている。 ①本人との個人面談（担任もしくは担任以外の教務とも連携） ②保護者との連携または三者面談 ③スクールカウンセラーとの連携 ④放課後の空き時間などで補講や個別対応にて課題フォロー。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.7%)	1人 (8.3%)
(主な就職、業界等) アパレル業			
(就職指導内容) 1年次は就職実務での授業や企業研究、ガイダンス、面接練習を実施。 2年次は企業受験に合わせた個別指導、グループ面接、個人面接練習など実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ファッション販売能力検定3級 90.9%、色彩検定3級 100%、パーソナルカラー検定モジュール1 100%、Word文書処理技能認定試験3級 100%、Excel表計算処理技能認定試験3級 100% ファッション販売能力検定2級 100% コミュニケーション検定初級 100%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	4人	11.7%
(中途退学の主な理由) 精神的問題・進路変更の為		

(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制・個人面談・三者面談・スクールカウンセリング・講演会

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	ファッションプロデュース科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080時間/単位	400時間/単位	520時間/単位	1160時間/単位	時間/単位	単位時間/単位
			2080時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		26人	0人	4人	2人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>各学科の専門的で実践的な科目を開設し、講義、実習、演習を組み合わせた教育を展開している。毎年、年度末に各科目を考査し、次年度の年間授業計画を作成する。</p> <p>（概要）ファッションデザインや企画ファッション業界での企画職の流れを総合的に学びます。</p> <p><1年次></p> <p>服作りに必要な基本的な専門知識と技術を、実習・演習・講義を通して学びます。ブランドを立案するための企画力とマーケティング力を学びます。また、企画した商品のWEBでの販売方法やモデルコーディネートカタログ撮影などに必要なカメラ・メイクの技術なども学びます。商品素材、色彩、ファッションビジネスなど幅広い知識を学習し、色彩検定・パーソナルカラー検定などの取得を目指します。また海外研修では国際感覚の育成と異文化での見聞を広めます。</p> <p><2年次></p> <p>○ブランドプロデュースコース</p> <p>2年次では、服の企画を基に服を実際に外注依頼し製作します。実際に服を製作しWEBでの告知やカタログ撮影までの流れを体感します。</p> <p>洋服の作りに必要な生産管理で洋服の構造などを学び、将来工場へ発注できる知識を身につけます。</p> <p>○韓国ファッションコース</p> <p>2年次では韓国のバイイング研修を取り入れ、韓国ファッションの仕入れから販売、プロモーションを行います。韓国語も学びグローバルな教養とセンスを習得します。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。</p> <p>1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。</p> <p>2、算出方法は以下の通り</p> <p>A：成績評価はA B C Dの4段階とする。</p> <p>B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。</p> <p>3、評価基準は以下のとおり</p>

<p>100点満点換算で次の基準を目安とします。 A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～0 出席率80%以上、課題提出100%、課題評価、定期試験結果や学習意欲などで総合的に成績評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%以上になること。 ・制作課題の規定基準C以上を充たすこと。 ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。 ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制を採用しており、学習未達や欠席の長期欠席者に関しては、以下の通り支援をしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①本人との個人面談（担任もしくは担任以外の教務とも連携） ②保護者との連携または三者面談 ③スクールカウンセラーとの連携 ④放課後の空き時間などで補講や個別対応にて課題フォロー。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	1人 (10%)	9人 (90%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) アパレル業			
(就職指導内容) 1年次は就職実務での授業や企業研究、ガイダンス、面接練習を実施。 2年次は企業受験に合わせた個別指導、グループ面接、個人面接練習など実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ファッション販売能力検定3級 80%、色彩検定3級 40%、パーソナルカラー検定モジュール1 100% Word 文書処理技能認定試験3級 80%、Excel 表計算処理技能認定試験3級 100%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	2人	8.3%
(中途退学の主な理由) 家庭の金銭的な問題・基礎学力不足からの目的意識の低下		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 担任制・個人面談・三者面談・スクールカウンセリング・講演会

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	ニットデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2080 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2080 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		0人	0人	4人	3人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要)	
<p>服作りに必要な専門知識と技術をベースに、ニットデザイン、ニットパタンナー、編立に必要な不可欠な専門力を高めます。</p> <p><1年次></p> <p>服作りに必要な基本的な専門知識と技術を、実習・演習・講義を通して学びます。デザイン画での表現技法と発想力を学習し、軽衣料アイテムを中心とした平面作図によるパターン制作と、軽衣料中心とした縫製の基本の技術を学び、服の構造を理解します。ニット授業では、糸や編地、編機の種類、染色。編地の加工、ニット製品が出来る過程また、服装史や商品素材、色彩、ファッションビジネスなど幅広い知識を学習する。これらの学習を通し、色彩検定・洋裁技術検定・パーソナルカラー検定などの取得を目指します。また海外研修では異文化交流と見聞を高めます。</p> <p><2年次></p> <p>2年次では、服の機能性、構造を理解する上で、立体裁断を取り入れ、平面と立体についてより深く学びます。前期のパターン・縫製では重衣料を中心に、デザインや素材特性も理解した上で、技術力の向上を図ります。デザインでは、国内外のコンテストへ積極的に挑戦し、コンスタントに入賞する高い発想力と表現力を高めます。また後期からはニット企業のインターンシップで、ニット全般の知識と技術を学び、オリジナルデザインからのニット製品に作り上げるまでの過程で、ニット独自の製品づくりを学びます。これらの学習を通し、パターンメイキング検定・洋裁技術検定の取得を目指します。</p> <p>各学科の専門的で実践的な科目を開設し、講義、実習、演習を組み合わせた教育を展開している。毎年、年度末に各科目を考査し、次年度の年間授業計画を作成する。</p>	
成績評価の基準・方法	
(概要)	
<p>成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。</p> <p>1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。</p> <p>2、算出方法は以下の通り</p> <p>A：成績評価はA B C Dの4段階とする。</p>	

<p>B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。</p> <p>3、評価基準は以下のとおり</p> <p>100点満点換算で次の基準を目安とします。</p> <p>A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～0</p> <p>出席率80%以上、課題提出100%、課題評価、定期試験結果や学習意欲などで総合的に成績評価を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%以上になること。 ・制作課題の規定基準C以上を充たすこと。 ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。 ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制を採用しており、学習未達や欠席の長期欠席者に関しては、以下の通り支援をしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①本人との個人面談（担任もしくは担任以外の教務とも連携） ②保護者との連携または三者面談 ③スクールカウンセラーとの連携 ④放課後の空き時間などで補講や個別対応にて課題フォロー。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) アパレル業・縫製業			
(就職指導内容) 1年次は就職実務での授業や企業研究、ガイダンス、面接練習を実施。 2年次は企業受験に合わせた個別指導、グループ面接、個人面接練習など実施している。			
(就職指導内容) 1年次は就職実務での授業や企業研究、ガイダンス、面接練習を実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制・個人面談・三者面談・スクールカウンセリング・講演会

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	トータルファッション科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	4200時間/単位	640時間/単位	1280時間/単位	2280時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		4人	0人	4人	3人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
各学科の専門的で実践的な科目を開設し、講義、実習、演習を組み合わせた教育を展開している。毎年、年度末に各科目を考査し、次年度の年間授業計画を作成する。 (概要) <1年次> ファッションビジネスに必要な基本的な専門知識と技術を、実習・演習・講義を通して学びます。ファッションマーケティングやVMD、WEBショップなどでファッションの市場・トレンド分析、テーマに沿ったディスプレイテクニックやWEB販売などに必要な基本的な知識技術を学習します。また、服装史や商品素材、色彩、ファッションビジネスなど幅広い知識を学習し、ファッション販売能力検定・色彩検定・パーソナルカラー検定取得を目指します。また海外研修では国際感覚の育成と異文化での見聞を広めます。 <2年次> 2年次では、将来キャリアアップするための知識や技術を学びます。バイヤーになるための国内・海外での買付実習や店舗運営で実店舗の運営やSNSでの告知方法などより実践的に役立つ、知識や技術力の向上を図ります。さらにファッション販売検定2級取得を目指します。 <3年次> (概要) デザイン・パターン・縫製の幅広い分野で基本から応用的な要素を総合的に導入し、それぞれの分野の専門性を高め、クリエイティブな感性や技術を修得します。 <3年次> 服作りに必要な基本的な専門知識と技術を、実習・演習・講義を通して学びます。デザイン画での表現技法と発想力を学習し、軽衣料アイテムを中心とした平面作図によるパターン制作と、軽衣料中心とした縫製の基本の技術を学び、服の構造を理解します。また、服の機能性、構造を理解する上で、立体裁断を取り入れ、平面と立体についてより深く学びます。オリジナルブランドの立案や企業プレゼンのポートフォリオ作成で、企画提案・プレゼンテーション力を培います。さらにパターンメイキング

検定・洋裁技術検定取得をめざします。またグローバルな視点から英会話力を高めリスニング&スピーキング力、コミュニケーション能力を身に着けます。

< 4年次 >

4年次では、3年間で得た専門的知識・技術を基に、国内外でのコンペティションでのクリエイティブな感性や発想力、さらにコスト面や生産工程までも考え、アパレル企業で即戦力となりうる服作りのテクニックを身に付けます。国内外からの一流のデザイナー・パタンナーからの直接指導により、オリジナルブランド企画立案とプレゼンテーション、高度な立体パターン技法を修得します。また産学プログラムとして売り場での商品展開として、職出しの知識と原価からの上代設定、下代の仕組みを学習し、売れる商品企画のノウハウと商品化までのプロセスを学びます。

毎年、年度末に各科目を考査し、次年度の年間授業計画を作成する。

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。

1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。

2、算出方法は以下の通り

A：成績評価はA B C Dの4段階とする。

B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。

3、評価基準は以下のとおり

100点満点換算で次の基準を目安とします。

A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～0

出席率80%以上、課題提出100%、課題評価、定期試験結果や学習意欲などで総合的に成績評価を行う。

卒業・進級の認定基準

(概要)

- ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%以上になること。
- ・制作課題の規定基準C以上を充たすこと。
- ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。
- ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。

学修支援等

(概要)

クラス担任制を採用しており、学習未達や欠席の長期欠席者に関しては、以下の通り支援をしている。

- ①本人との個人面談（担任もしくは担任以外の教務とも連携）
- ②保護者との連携または三者面談
- ③スクールカウンセラーとの連携
- ④放課後の空き時間などで補講や個別対応にて課題フォロー。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
------	------	-------------------	-----

0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) アパレル業・縫製業			
(就職指導内容) 1・2年次は就職実務で自己PR作成・履歴書の書き方・マナー・リクルートに対する知識を学ぶ3年次は就職用資料作りとしてポートフォリオ制作、企業研究・ガイダンス・面接練習を実施・4年次は企業受験に合わせた個別指導、グループ面接、個人面接練習などで受験対策をメインに指導。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制・個人面談・三者面談・スクールカウンセリング・講演会		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政専門課程	ファッション専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜	1040時間/単位	40 時間	時間	1000 時間	0 時間	0 時間
	昼		1040時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		2人	0人	4人	2人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 専攻科では、本校専門課程で得た又はそれらに相当する専門知識・技術を基に、国内外でのコンペティションでのクリエイティブな感性や発想力、さらにコスト面や生産工程までも考え、アパレル企業で即戦力となりうる服作りのテクニックを身に付けます。国内外からの一流のデザイナー・パタンナーからの直接指導により、オリジナルブランド企画立案とプレゼンテーション、高度な立体パターン技法を修得します。また産学プログラムとして 売り場での商品展開として、職出しの知識と原価からの上代設定、下代の仕組みを	

学習し、売れる商品企画のノウハウと商品化までのプロセスを学びます。

毎年、年度末に各科目を考査し、次年度の年間授業計画を作成する。

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価は原則として各科目別で行われ、前期後期の各学期末に評価を行う。

1、成績評価は授業態度、確認テスト、出席率、課題提出状況、科目終了時の考査などの資料を基に行います。

2、算出方法は以下の通り

A：成績評価はA B C Dの4段階とする。

B：科目評価は科目終了時に試験、レポート、提出課題などで評価します。

3、評価基準は以下のとおり

100点満点換算で次の基準を目安とします。

A：100～80 B：79～70 C：69～60 D：59～0

出席率80%以上、課題提出100%、課題評価、定期試験結果や学習意欲などで総合的に成績評価を行う。

卒業・進級の認定基準

(概要)

- ・各科目の出席率が年間授業時間数の80%以上になること。
- ・制作課題の規定基準C以上を充たすこと。
- ・課外活動、行事活動の、年度中に定められた回数に参加すること。
- ・該当年次の学費および諸費用を完納すること。

学修支援等

(概要)

クラス担任制を採用しており、学習未達や欠席の長期欠席者に関しては、以下の通り支援をしている。

- ①本人との個人面談（担任もしくは担任以外の教務とも連携）
- ②保護者との連携または三者面談
- ③スクールカウンセラーとの連携
- ④放課後の空き時間などで補講や個別対応にて課題フォロー。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) アパレル業・縫製業			
(就職指導内容) 専攻科では、企業受験に合わせた個別指導、グループ面接、個人面接練習など実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制・個人面談・三者面談・スクールカウンセリング・講演会		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ファッションデザイン科	50,000円	890,000円	190,000円	
ブライダル・コスチュームデザイン科	50,000円	890,000円	190,000円	
ファッションプロデュース科	50,000円	890,000円	190,000円	
ファッションビジネス科	50,000円	890,000円	190,000円	
ファッションスタイリスト科	50,000円	890,000円	190,000円	
トータルファッション科	50,000円	890,000円	190,000円	
ファッション専攻科	50,000円	890,000円	190,000円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校のホームページにて公表 https://nitf.jp/public/
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) ■本校は教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図り教育水準の向上に努める。 ■評価委員の定数 4名

■専修学校における学校評価ガイドライン下記の10項目について自己評価を行い評価委員より評価を頂く。

1. 教育理念・目標
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の受入れ募集
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献

■自己評価を基に学校関係者評価委員会の会議を開催し企業役員・卒業生からの評価を受ける

■評価結果の活用方法
会議の結果を基に学校運営に活かす。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
新潟県ニット工業組合 理事長 梅田 恒栄	令和2年4月1日～令和4年3月31日	企業委員
株式会社 サンクミル 代表取締役社長 関川 博史	平成31年4月1日～令和4年3月31日	企業委員
井上 昌紀	平成31年4月1日～令和4年3月31日	保護者
大倉 敦志	平成31年4月1日～令和4年3月31日	卒業生

学校関係者評価結果の公表方法

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<https://nitf.jp/public/>

第三者による学校評価 (任意記載事項)

--

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://nitf.jp/public/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	国際トータルファッション専門学校
設置者名	国際総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		29人	29人	58人
内 訳	第Ⅰ区分	15人	17人	
	第Ⅱ区分	—	—	
	第Ⅲ区分	—	—	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				59人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	—	0人
計	0人	—	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	—
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	—

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。